

経緯

- 医療機関における抗微生物薬の適正使用の推進は、「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2023-2027」において、薬剤耐性（AMR）対策の6つの目標のうちの1つであり、医療におけるAMR対策の最も重要な取り組みの一つである（戦略4.1）
- 「抗微生物薬適正使用の手引き」（以下「手引き」という。）は、主に外来診療における一般的な感染症診療における抗微生物薬の適正使用のあり方を明確にする目的で、2017年6月に第一版、2019年12月に第二版を発行した。
- 「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2023-2027」においては、戦略4.1における取組として手引きの更新、内容の充実及び臨床現場での活用の推進を掲げており、今回、抗微生物薬適正使用(AMS)に関する作業部会において改訂作業を行い、入院患者への抗菌薬適正使用について新たに記載した手引き第三版（案）を作成した。

概要

- 手引き第三版（案）では、外来編の内容の更新を行うとともに新たに入院編を書き下ろし、本編と別冊と補遺の3部編成とした。
 - ・「本編」一般外来における成人・学童期以降の小児、乳幼児を対象に急性気道感染症、急性下痢症等にて抗菌薬投与が必要な状況と適切な抗菌薬投与について解説。入院編では医療機関で入院患者の診療に関わる様々な医療従事者にとって重要な基礎知識を解説。
 - ・「別冊」入院患者の感染症で問題となる薬剤耐性菌を中心に具体的な抗菌薬治療について解説。
 - ・「補遺」入院患者の感染症の抗微生物薬適正使用についての補足事項を記載。

本編

- ・ **一般外来における成人・学童期以降の小児編**
 - ✓ 急性気道感染症
 - ✓ 急性下痢症
- ・ **一般外来における乳幼児編**
 - ✓ 小児における急性気道感染症の特徴と注意点
 - ✓ 小児の急性気道感染症各論
 - ✓ 急性下痢症
 - ✓ 急性中耳炎
- ・ **入院患者の感染症に対する基本的な考え方**
 - ✓ 診断・治療のプロセス
 - ✓ マネジメント

別冊

入院患者の感染症で問題となる微生物

- ✓ 黄色ブドウ球菌 (*Staphylococcus aureus*)
- ✓ 腸球菌 (*Enterococcus* spp.)
- ✓ 腸内細菌目細菌 (Enterobacterales)
- ✓ 緑膿菌 (*Pseudomonas aeruginosa*)
- ✓ その他のグラム陰性桿菌（緑膿菌以外のブドウ糖非発酵菌）
- ✓ クロストリジオイデス・ディフィシル (*Clostridioides difficile*)
- ✓ カンジダ (*Candida* spp.)

補遺

入院患者の感染症の抗微生物薬適正使用についての補足事項